

「竿頭の先に未来をひらく」

平成三十一年四月二十二日 於加茂法話会

平成三十一年度・令和元年の曹洞宗の教化方針・・・スローガン

一、道元禅師の「仏向上」(『正法眼蔵』「仏向上事」巻)、瑩山禅師の「精進」(『伝光録』「摩訶迦葉章」)の教えをおし、百尺竿頭進一步の意思をもって、今こそ未来を見据え、現状に満足せず新たな一步を踏み出します。

二、いはゆる仏向上事といふは、仏にいたりてすすみてさらに仏をみるなり。

道元禅師に於いては、身心脱落した坐禅人のことを意味する、思慮分別を離れ、一種の全体思考・普遍思考を会得した存在ということになる。どの仏もどの仏も伝えてきた真実の坐禅のこと。

三、百尺竿頭とは、百尺もの長い昨干の先端。禅門では修行の結果到達した悟りの境界、法身上上辺をいう。百尺竿頭進一步とは、①百尺竿頭は仰向上事辺の境界をいい、この悟境辺に滞著することなく、無限に向上しゆく事から向下門の衆生世界に転進して利他行を行ずることを進一步という。

四、精進・・・勇猛に善を修し、悪を断つ修行。仏様の生き方。弛まない努力。

仏弟子となったマハー・カーシヤパ(摩訶迦葉) 釈尊十大弟子の一人として、頭陀行第一とたたえられる。

頭陀というのは、梵語ドゥータの音写で、衣食住に対する貪りや執着を払い捨てる修行法で、十二種の実践項目がある。それを十二頭陀行という。劉宋の求那跋陀羅訳の『十二頭陀經』によれば、

- ① 人里離れた山林に住むこと (在阿蘭若処)
- ② 托鉢によつてのみの食生活 (常行乞食)
- ③ 乞食するの家の貧富を問わないこと (次第乞食)
- ④ 一日に一食しかしないこと (受一食法)
- ⑤ 食べ過ぎないこと (節量食)
- ⑥ 昼食以後は飲物も飲まないこと (中後不得飲漿)
- ⑦ 廢物の布で作つた衣を着ること (著弊衲衣)
- ⑧ 三つ以上の衣を所有しないこと (但三衣)
- ⑨ 墓地で生活すること (塚間住)
- ⑩ 樹の下に住むこと (樹下止)
- ⑪ 空地に坐ること (露地座)
- ⑫ 常に坐して体を横にしないこと (但(たん)坐(ざ)不臥(ふじん))

五、世尊、迦葉に正法眼蔵を傳付せしきさま、同く阿難に付囑して曰く、副貳傳化すべしと。之に依て迦葉に随ふこと亦二十年、あらゆる正法眼蔵、悉く通達せずといふことなし。

阿難は佛の給仕として多聞にして廣學なり。一器の水を一器に傳ふるが如し。

今の釋迦佛と同時に阿耨多羅三藐三菩提心を發しき。阿難は多聞を好む。故に未だ正覺を成ぜず。釋迦佛は精進を修しき。之に依て等正覺を成じたまふ。實に知る、多聞は道の障礙(しょうげ・悟の障害となるもの)たること、是れ其證據(しょうこ)なり。故に華嚴經に曰く、譬えば(ひんきゆう)の人の他の實を算えて自ら半錢の分なきが如し。多聞も亦復た是の如しと。親切に此道に訣著せんと思はば、多聞を好むこと勿れ。直に勇猛精進すべし。